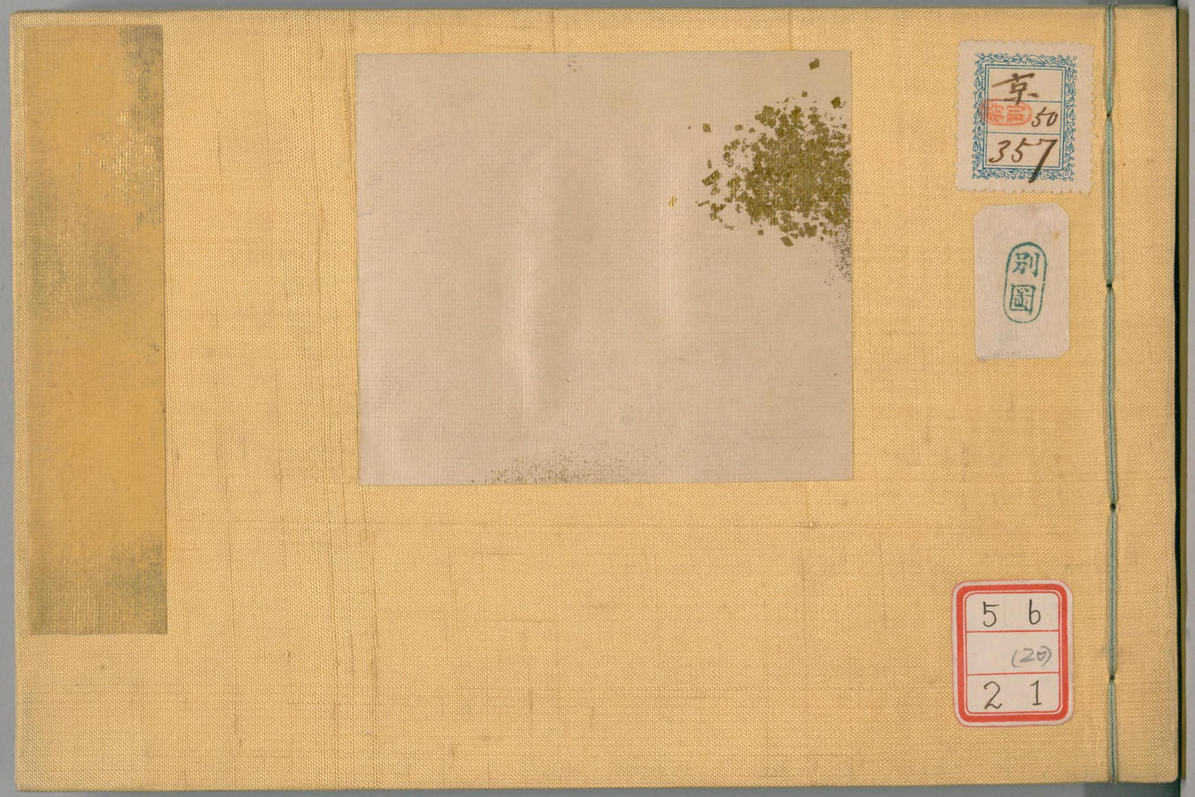


国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

帝国図書館蔵書
大正
6. 4.13
購求

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

忠度

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

忠度

装束之覚

初シテ　面　朝倉尉　尉髪　着付熨斗目　水衣
腰帯　扇　杖　木ノ葉
後　面　中将　梨子打　白鉢巻　黒垂　着付
唐織　単法被長絹袴　大口　腰帯
太刀　扇　矢短冊付

杖ソキ左ニ木ノ葉持出ル

実世流能附并舞附本

舞附

シテサシ一ニアテテ出シテ柱ノ内ニテ正

ゆきゝやかもとり須磨のくまもり
附てとをわすれさるいはせをも
ひもゝすそ浪おりしきてすゝ
の海（一セイ）　磯のすゝしきまくら
正　おいなくちうち移をとゝめ
二足下ル　きゝ　杉正

ゝみち須磨浦こやかさしきまくら
かきをふきとう風こそふけ
あらし須磨のうらふすまうすし
つゝうちあけてなをあかしかね
あはちぬしの藻塩たれつゝ松風
風いつもさしくるかきそふる
なも河（右ウケ）又このもゝよりもふく一本の楸
名残おしいわしみ山のもゝ
それあり（下正）時雨ふる
たもとのあかきもみちかな
正一出　あらしふく山もとかけてとふ
下二居木ノ葉下ニヨリ　たつきかなれをもとりもみちけり
正二ヨリムケ
立右ヘトリシテ柱ノキハニテ正　ワキ出　いふ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

とせハ花やこゝろひの何ほしかゝ面
しと セル正 かゝめし人ハこの 下ヲ見 さまの下
面直ス いるハしやとまつゝ面ゝ面ゝ何面
こゝろも法ハ立ちりとむらひ中
か 中ヘ 僧ゝちハかときやく思ひかゝ
らとゝひまゝ思をろ 二足ワキヘツメル かまし
面す人ゝゝ申 ワキ詞 正 思ひられてこれ
下ゝきれ者とせハ花やさよひの
何ほしかゝ面しと セル かゝめし人ハ
さ何面の音 シテ詞 ワキヘ 思ひ申し人ハこの
一ハ谷のうせんにうゝまゝ四ゝ里の
人のうへおきゝる志ほしの末にてハ
かり ワキセル 正 こハ花も何しまれちくろ

えんにしもさハゝ里としかりの
シテセルワキヘ 和哥の友にてあさゝゝ思 ワキ 者ハ
こゝろひの シテ あ日しれ人 ワキヘ二足ツメル 地 名もゝ 中ヘ出下ニ居正ニ向秋下ニラキ有ヌク
のゝまゝへきて花のうてかに坐
しまへ シテ上 有ゝるや名ゝりハかゝと
ぬらひまゝへきて 佛ワキヘ 果をはん
花ゝ純しき 上地 正 ぬしまゝ名の花
人乃ゝもまのこ思相身にうまてゝろ
こゝふきしまゝへゝるハ何ほ面へかて
有面ゝん シテ上 中ヘ 僧にとり純中さん
とてまゝてきしまゝりと 上同 立 夕面の
花のうけに称て 夢ワキヘ向二足出 の法をとも
右ヘ回リ 面ちまへ 却へおとつてやさんと

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

シテ拄ノキワニテ正ヘ向ヒラキ

[illegible]

返シニ入ル

半囃子懇体能之通達イメヲ記ス

●さもいそがハしかりし身の折切ニ立大小ノ前ヘ行正●後成の泉ヨ角ヘ行角トリ左廻リ●去程ヲ扇ヒロゲクツロギシテ拄ノキワニテ正ヘ雲ノ扇●いまハ叶ハしと思ひて安坐セズニ正ヘ直ス●薮をみれハシテ拄ノキワニテ扇ヒロゲ左ニ持正ヘ一ツナゲナガラ出右ヲ引右ノ手ニテ扇ノ角ノ処ヲタテニシテ上ヘアゲ見花ヤ若ての柏子フミ立廻リナシニ直ニ亦上ヘアゲ見花やトウタイ又下ケテ右度とかれよりトウタイ扇右ヘ持ハうらうらいサシワケ右ヘ廻リ受ヘし正ヘヒラキ扇折合シヲリナシ此ノ花のト直ニワキヘ●我語といてト右ヘ廻リ大小ノ前ニテ左右トメ

半囃子ノ節中ニも此忠度をヨリ初ルワキロナレ此半囃子ノ節シテニテウタフ

後シテ上一声ニテ出シテ拄ノ内ニテ正ヘヒラキ謡フ

[illegible]

ワキヘ

[illegible]

正

[illegible]

アトヘ二足下リ

[illegible]

ワキヘ

[illegible]

ワキノ方ヘ出ル

右ノ方ヘ左右中ト面ツカイシナカラ三足出ル

[illegible]

中ヘ出テ下ニ居ル正

クリ地

[illegible]

忠度

装束之覚

僧脇　三人

初シテ　笑尉　朝倉　着附熨斗目　シケ水衣

腰帯トンス　杖　木ノ葉　襟　扇

後シテ　中将　若男　梨子打烏帽子　白鉢巻　黒垂

着附唐織　法被右カタツキ　半切　太刀

扇子　腰ニ矢付　短冊ヲ付　右ノ後指

単法被カ長絹ニテモ白大口チリ

暦業之時之負柴

●志賀負柴之通リニテ桜ノ枝三本程サス志賀ヨリハスクナシニギヤカニテハアシ、花少シニシテサシ其内一本ヌキル枝ハ本業ノ時持出ル木ノ葉ヨリ少シ長クシテサス右ノ枝ヲヌク也其余ハ少シ大キメ

扶捨ル心得

●本業花の蔭ニテ扶ステル暦業かゝふ浦風ニテ扶ステル此ステヤフヨコヘホヲルニアラズ下ニヲクニアラズ中ハシヨリヲトス後見持入ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

たゝトリ正ノ向キナガラ矢ニテサシ込ミ右ノ方ノ少シ出タラフミ込タンシヤウヲ右ノ手ニトリ左ヲ川タイカイフミソ

右ノ足ツシヒナリタンシヤクヲアケテ見

●梓弓もてなれそめし心ゆへ

タンジヤクヲ右ノ方ノ下ヘサゲ右フミニキタンジヤクノウタノ下ニ名ノカキアルナレバソノ名ヲ見ル心テタンジヤクノ下タノ処ヲ見ル

立ツリアトたニテサシ込ニシ二三足出ナガラ天上ノアケタンジヤクノ下ヲ右ニモテ行ソレヨリトタンジヤクノ右ノ方ノ下ノ句ヲ見ル心ニテ謡フ

●花やおそきの三重ねとかや

替業　ライ来ライ様　志賀ノ通リ

一セイ右ニ枝ツキヲイ柴〈桜ノ枝ヲサシセヲイたノ手ニテヲイ栄ノヒホヲムナノ処ニテモテキリ幕ノ内ニテ右ヲケ左ニシ出ノ松ニテたノ足右ヲケテ正ヲケ右左ト出ツ〈ツキ右ノ足フミツメ謡フアト橋掛リヲタイ内ト左〈トリ出右〈たノ足カケテ正向舞台〈入リ

逆ヲケ〈ト来附ノ通リ三足ツメ

ナニセニテ業ノ本附同断

●芝曳のむまうまはるゝ春の野に

おそくも咲を初桜

シテ柱ノ内ニテ足トメルアト本附同断

●うたてやふさぬ花の

右ノ足引下ニ居ツ〈下ニステヲイ柴前ニモテタル手ヲエルメテウシロ〈ヲロシテ柱ニテタンジヤクカケルニテ下ニ安ニシ右ノ足ヲ上ノ足ヘ

ニサ立ツシたノヒザヲテ右ノヒザツキワキ向脇立ノルトスハリノルトノ本附同断

たとゑ次向ヲイ芝〈たノ手ヲヨウトソ〈右ノ手ニテ指ノ枝一本スキモテ正先〈出下ニ居サクラノ立ヒザ下ヘシラキガフシヤウ

●ゆるしの苑のやまさくら

為も忠度の声草々花の色に咲

手下ケ角ヌキ持

●有為やこよひ

ワキ〈向アト本附同断

●仏果をゆんず柱

立

●夕の花の影も薄く

左右トワキ二足ツメ

●夢の告をも

手ヲケ左ニリ

●待つ〈郭〈ゝ雪傳やうん〈

左ノ手出シ

正〈トラキ

●よ窓を未乃明方ゝ〳〵成ゆく

中入

〳〵

立〈ハリ

●角〈行角トリ足トメズたゝ〈ハリ大ソ前ニテ少シ出リサガリ少出矢サシ込ニ右ノ手ニテタンシヤクヲトリ見花やよそ〳〵ト謡フ

又

正向キイデ

●どこもなるらの彼ふめるこ哥の

左ノ足〈右ノ足カケテワキ向キ〈アト附同

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

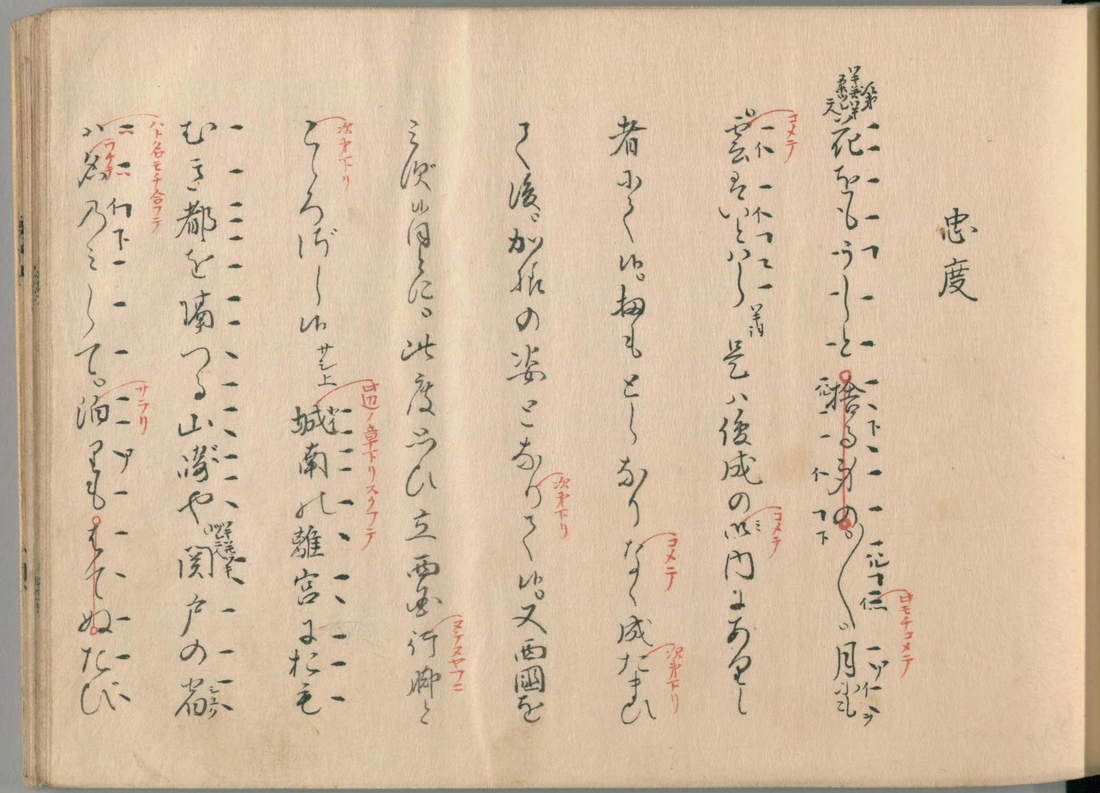
●[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible]とこゝろ。[illegible]の[illegible]ハ
（拍子ノリ辻扇打辻）
（ヒラキ）
よしなしと[illegible]
●皆（左ヘトリ左ノ袖カヘシ）[illegible]
（右左ト面ツカフ処口訳）
●かく[illegible]
（ツキヘ向出）
（足トメトメタ足ヨリ二足ツメ）
[illegible]
（七ツ拍子右ノリ辻アト口訳）
[illegible]
●[illegible]
（上ヘ一ソクニ飛上リ左ノヒサタテ右ノヒザツキ居立チ左ノ手ニテヲサヘル）
[illegible]

又

右ノ足フミ出シ右ノ方見左ノ方見ヘハシ左ノ足フミ出シ中ノ向ヲ見テ右ノ足フミツメナガラツヘムナニアテ右ノ杖ノ上ヘ左ノ手カケテ
●[illegible]
（右ノ上ヲ見）
（下ヲ見ル）

忠度

[illegible]
（コメテ）
[illegible]
（コメテ）
[illegible]
（コメテ）
[illegible]
（次第下リ）
[illegible]
（次第下リ）
[illegible]
（次第下リ）
[illegible]
（日辺ノ章下リスクフテ）
[illegible]
（ハト名モチ合フテ）
[illegible]
（サラリ）
[illegible]



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

九十三

の池水底清くしてさまよひて
の葉ちれる風の音ぞさびしさまさる
まよひぬる身のほどつらき身と思ひしる
山がくれより出る世の中のうき身は
あはれはある夢さへさむる枕に浪と
ところぞ寂しき跡になるあはれなる
浪まさに舟のかく　実
まよふなるひかくかへるさこそ是も
これもまたのぐ名に附くる塩木を
たゞ今はかくとも是もまたならひ衣
かへる山かげさくとも須磨の海　あま
のよるひる色ひまなさにこぼるゝ
鳥が鳴くなる　神代須磨の

よしやはらひさきゆくことかなと
いはくらはなみ人あらは須磨の浦に
ども浦つきせぬわざよ下に宮や
漁のあまの小船にもかゝる煙松風
いつれかさびしからずといふ事なき
又此須磨の山陰に一木の桜の候
是はある人の亡き跡のしるしの木なり
ことに時しも春の花手向のために
逆縁ながら足曳の山より
かへる折ごとに薪に花を折そへて
手向となすぞ痛はしき
是なる老人おことは此山賤か
まづ海士とや　さん候此浦の塩

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

錦の直垂ハたゝ世の常によもあらし
いかさま是ハ公達の御中にこそあるらめ
とはん所に箙を見れハふしきやな
短冊を付られたり見れハ旅
宿の題をすへ　行暮て木の下陰を
宿とせハ花や今宵の主ならまし　忠
度と書れたり　扨ハ疑ひあらしの音に
きこえし薩摩の守にてますそ痛はし
き　御身此花の陰に立寄給ひしを
かたり申さんとて日を暮しとめし也
疑ひよもあらし　花ハ根に帰る也　我跡と
ひてたひ給へ　木陰を旅の宿とせハ
花こそ主なりけれ

俊成忠度

装束之覚

シテ
面中将　梨子打　白鉢巻　黒垂
着付唐織　掌法被長絹之内　大口
腰帯　扇　太刀

舞付

俊成
行暮て木の下陰を宿とせハ
花やこよひのあるしならまし
上音
いたはしや忠則らしく　破戒む
きんの羅綾をまとひ　仁義禮智信
いつれの道もうとからす　歌道に
達者たり　弓矢に名誉あるのみならは
文武二道の忠則の　好き給ひし彼
きしのうてなにいそき給へや

扇ハしやまノ初句ノカヘシノアタリヨリ幕切リ出シテ柱ノ内ニテ正橋懸リ短カケレバ見合ニ…真ヘやト云マテ一杯ニシテ柱ノキハヘ入テル、ソライニ見合セテ切幕上出ル

しく　シテ　せんて程をし　おもひをん
ざんの夕へ　ほこらにも　月を八重乃
塩路に志明こし　身なほとも　粉丸
重の事に　云ふれ　ともに　詠めし花
の　ほこの面影や　こゝつらん　いのち
をくむかに　かるゝ　物あらは　何の　左右ト二足下リ　面下ケ心持
ことの　ものうらへき　詞　雪　面直ツレへ　に俊
成乃　忠別こそ　是とも　ありてこへ
俊成正　山思　葉やな　菱う　ほくとも　ことさまに
薩摩ち　ほこそ　あらは　ぬふふ
しきさま　シテ詞　偖　ツレへ　も千載集
一首乃　序を入させ　ぬふ　御志　ゆゑ
うほし　あれとも　諸人　志ゆきと

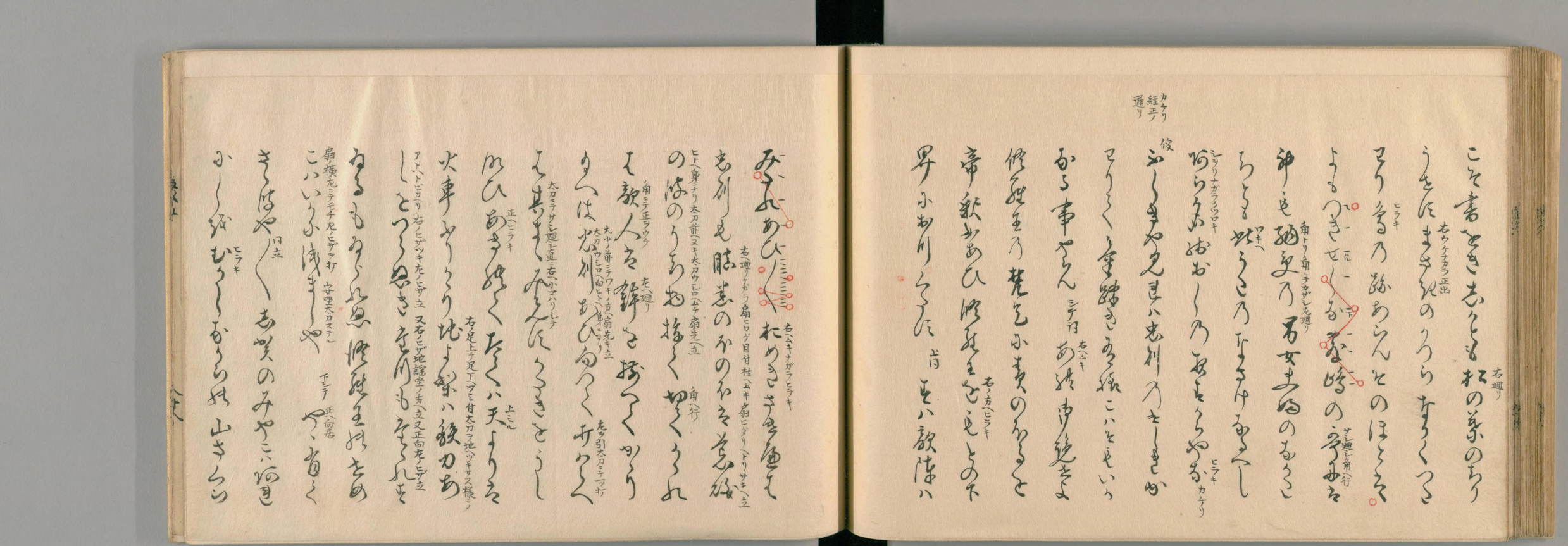
かれしとそ心に　かゝりこへ　俊成正　もつとも
ろ　ほこ　志事　なほとも　詞　和歌乃
御身　あらはさんは　世のまゝかり　よし
や　ほこ　ゆゑ　あらは　御名　ゆゑ　ゆゑ
よもあらし　御　ゆゑ　あく　おかし　ぬせ
シテツレへ　これも　ゆこそ　志ら　雪乃　ふるき　世
とも　奇　ある　ほらは　俊正　ほ　名　もさま
かむさし　何ふこ　かゝれは　あらし　我人の
シテツレへ　なさゆの　ほ　ほも　ぬ　みとり　俊　行　至
詠　事　もあるある　シテ　古　の　ほこ　ツレへ　二足ツメル
影　かく　上手　正　さ　ほや　志　ヒラキ　ぬ　都　ゆ
あ　ほ　ほ　と　し　く　右ウチ　むかし　なから　ほ
正へ直出　山さ　ゆゑ　ゆゑ　よ　ん　しも　なまき　世の

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

ヒラキ
ほまきを殘に詠歌なる 左り廻り 事にや
うき世は電光小林の夢れたはれ
かうこへやまへや津の出乃 シテ柱ノキハニテツレヒラキ 難波の
事も忠別なりうこうこせなる
なる 中へ出下ニ居ロキヘムキヲル 我うこのうせなるなる 俊詞 いかに申
を忠別にくはしまさて和平の
屋内ゆ語らく シテサシ 正 およそうこにを
六義あり是六道乃ちまこに詠し
日 ちとやある神代のうこを毛しの
粉もあこめなし シテ 言語をてる
古神の日おのかこ 日 りさのをの為
より三十一字にさらめ重きて末
世 ツレ 末代乃 た見しこうや 名 正 その

思ひ素盞烏為の如やすこ
なるへ出雲の出にゐましく
大宝作りきしなに八年の夜
川を沙逸しくみことの一首乃
沙詠かく斗八ヶ重乃出ヶ八
重かきつまこめに屋へかき法くる
そのや忘かきをこ神詠もかくしけな
や今の世乃 ツレ 幸あし成へしあも
日本法戸はうらに 立 捨寐しくなる
めやる 右ウチ 四石乃うらの 寺込 飯きりこよみ
しも思ひ志ゆきり 上シテ 上ノ扇 人麿
世になくなりく 日 左右 平乃ことこ
海り思ひ紀の貫之も躬恒もかく 寺込ヒラキ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



[illegible]

俊成ノ附　俊成装束　直面　黒頂折　着付段厚板　臭口
長絹　紋付腰帯　襟
黒脇　金地寿紅扇　短冊ヲ方ヘ渡
●大小坐付ト只出ワキ坐ニ下ニ居●何事ぞ　トモヘ●
ワキ中ヘクルヲ見いかゞ　ト詰●[illegible]ヘワ
キ短冊渡スヲ受取リ正ヘ少シ向短冊ヲ見実

やト詰●いゝはしやノ歩切ニタミ左ノ袖ヘ入レ正ヘ直
●いかゞ俊成シテヘ●[illegible]正●[illegible]せ
シテヘ●凡正●[illegible]トシテヘ●[illegible]シテ
ヘ歩切ニ正●[illegible]シテヘ●[illegible]正●ふ
[illegible]シテヘ●[illegible]ト正●終リシテノ
アトヘツキ入ル

半囃子

●[illegible]の世[illegible]し[illegible]歩切ニテ立●[illegible]
の浦　右ウケ●[illegible]●上ケヨリ末能
付ノ通リ●此[illegible]の左右●[illegible]
クツロキカケリ常ノ通ニテアト太鼓坐ニテ小廻リ
右ノ方ムキヒラキ●[illegible]ハ忠度の此
俊成ノ詞ヌケル直ニ[illegible]ト詰●元ノ
如ク右ノ方ヘヒラキ●[illegible]ハ此取ノ拍子能
ノ通リ●[illegible]ハ右ノ方ヒラキ[illegible]
右ヘ廻リナカラ扇ヒロケ目付柱ヘ向キ扇左ヘト
リ先ヘ立ヒトヘ身ニナリ●[illegible]直ニ扇右ヘ
トリスホメ太刀ヌキタル様ニ前ヘ出シウシロヘ向キ
左ノ手先ニ立●切て[illegible]ハ角ヘ行角ニテ正ウ
ケ●[illegible]左廻リ●[illegible]大小
ノ前ニテワキノ方ヘ左先ニ立二足三足出●[illegible]
ハ左ヲ引扇ニテ一ツ歩●[illegible]サシテ右ノ方ヘカヘ
リ小廻リシテ正ヘ向キヒラキ●[illegible]ハ上ヲ見●比
[illegible]右ノ足ヲアケ右ノ足下ヘフミツケ扇ヲ地ヘ
ツキサス様ニメアトヘ飛カヘリ●[illegible]
能付ノ通リ三ツ合シ●[illegible]片膝立下ニ居

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

正ヲチヨト見●おハいかに面下ケル●やゝあつく
是ヨリ末能付ノ通リ●ゆりつるまゝさしサシテ
右廻リ●鶏筋の山大小ノ前ニ立●おかく見
て左右トメ

●五岳道をたゞしくて　お切ナシ
●[illegible]　お切ナシ
●ワキ短冊ノ付タル矢ヲ右ノ手ニモチ左ノ手ニテ短冊
ノ先キヲモチテ俊成ノ前ヘ来リ夫ナリニワタス俊
成下ヨリウケルヤフニメ右ノ手ニテ矢ヲモチテウケ
トリ右ノ手フセテ左ノ手ニテ短冊ノ先ヲモチテ目
通リヘ上ケテ見テウタフ又矢ナシニ短冊斗持出ワ
タスコモアリ其時ハ短冊ヲ懐中メ出懐中ヨリ出
右ノ手ニモチテワタス俊成右ノ手ニテウケトリ左
ノ手ニモチカヘ短冊ノ中ノ処ヲモチ目通リヘ上
ケテ見テウタフ　日吉

十八　俊成忠則

早詞
加様に出来ぞ武蔵の国の住人岡邊
の六郎太忠澄と申者にてゝ様も此
度西海の合戦に薩摩守忠則を
集り平に無失ひ申て候所に死後の
後庭籠を見ましハ短冊の所度よし
承ましハ五条の三位俊成と忠則と
ぶらぬ和歌の御徳遇の由申候日。此
短冊をもちて来り。俊成の御同に
無ましき存候ゆゑに無用申候　和さ　頭に
て渡りはそ　ワキ　岡邊の六郎太忠澄の来
ましき由申候へ　和さ　必持申候ゆゑに申
上候　後成　何事にて有り　和　岡邊の

六弥太忠澄の御出やらん候は　ワキ
方なと申せしへきに忠澄ならとハ行の
為に手向の短冊見て候そ　ワキ　扨は然る
ては存し、世と申す事、金義に非と
西海の合戦に薩摩守忠則をハ基う
手に掛失ひ申しては討究乃箙
箙を見れはそれハ短冊の付けられ詠ハ
忠則と後成ハ浅からぬ和歌の値
遇の由承り、御身よりかきを申と存
じ候と存し参りて候　後　此方へ参り候
御覧やあらん東の武士をも見るより
の御きれよりかやうなる人の名ありて
ねとひかりし世にあそ歌して候よ

扨は旅宿の花と云題に
て行暮て木の下陰を宿とせは花や
今宵の主ならまし　痛はしや忠
則ハし　破戒無慚の罪を望まれに
義礼智信五つの名を守りて哥
道に達者なり弓矢に名をあきらかハ
文武二つの忠則の船をさえく彼岸の
堂に至りあやく　せんと疑ひ
し思ひをかんしつむの夕の雲にもちをと
八重の塩路に流らし身をなれても九重の
雲井われらも詠歌の道の色かり面
影や残らん命をもて口にかうて持ちちる
は行かかまの命もうかるへきいかに俊成

痛はしや忠則ハノカヘシノアタリヨリ幕切リ出シテ柱ノ内ニテ正橋懸リ短カケレバ見合扇ヲヌリ分ヘヤト云処マデ一杯ニシテ柱ノキハヘ入ル丶クライニ見合セテ切幕上出ル

右左トニ足下リ面下ケ心持

詞　面直ツレヘ

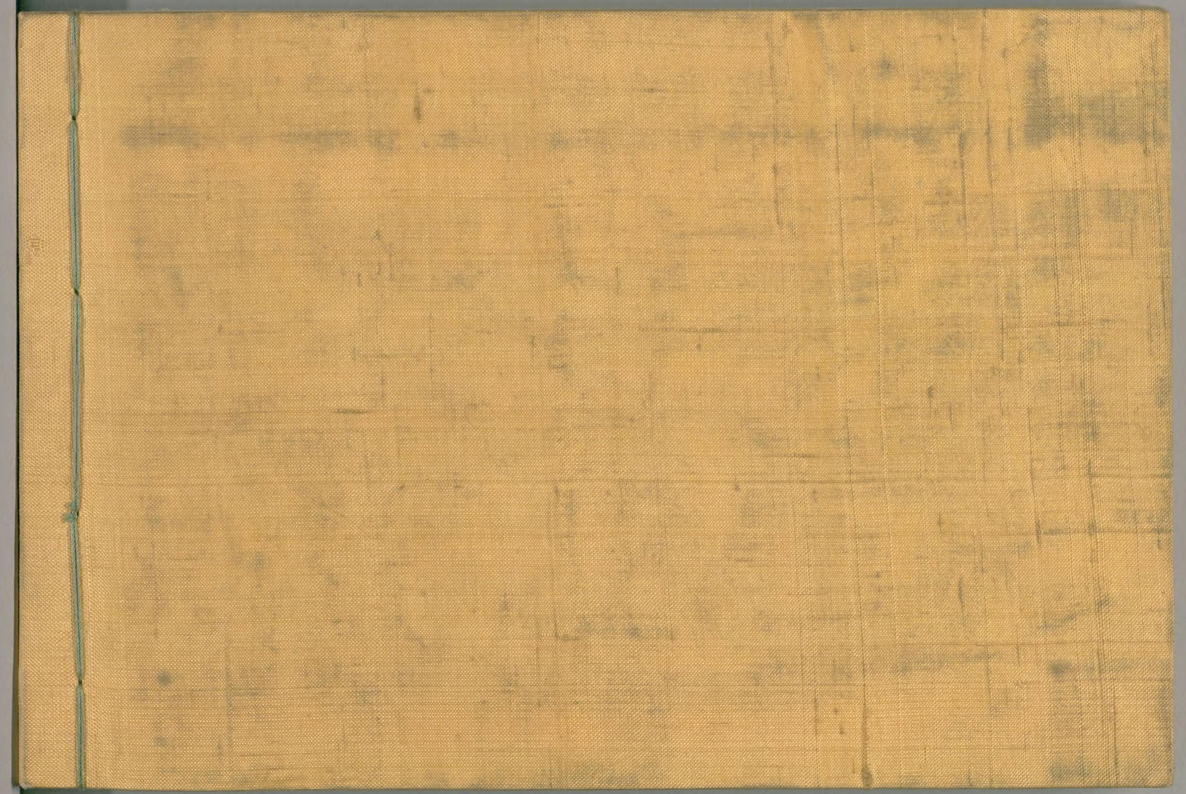
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

の郷忠則こそ是迄参りて候へ
優やさしき現れたりける薩摩守の
御姿なりけりと語り給ふにきく程よ　扨も千
載集に一首の詠哥を入させ給ひし志
さらに忘れ難く候へとかくれし
社心よからぬ次第へ　見つともそれハ去年
あれた朝敵の身をなすまてあらハさん
世のならくろさよしや渋方有あらハ許
名のハかくれもあらし　忠心安く思ハ是
我もた社とさう雷のふる御世まても歌
背ならハ　其名を流石むかしのあとのか
それハあらし秋人の　情の末をみの
草　ハや詠哥も心あら　敷ての花と

此道まて　げに程やさしき人ハあるまし
みちをうしむかしありつる山桜のかを
よしもある浮世のほまれを詠さと詠哥
それ空や浮世ハ雷光胡蝶の夢の戯よ
ざふやまへや津の国の難波の事も忠
則なら鏡の世語の事我鏡の世語の事
げにや忠則ハまことハ和哥の
名将に福禄ゆへ　尾哥まで六義有
是なるの巷を離しあまた振神代乃
哥そとも名をも定なし　利たは天照
太神の御こなりこ素盞烏尊より三十
一字の定ましく末の世まても例となりや
其由へハ素盞烏そのかみの八雲とこそ語られ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用